

第Ⅲ期 出雲市学力向上推進プラン

〔 学力向上の合言葉 〕

い つも 学びを楽しみ
ず っと 学び続け
も っと 学びを生かす

+ 1 する 出雲の子ども

令和4年(2022)9月
出雲市教育委員会

目 次

1	第Ⅲ期 出雲市学力向上推進プランの策定にあたって	
(1)	趣旨	P 1
(2)	プランの位置づけ	P 1
(3)	プランの期間	P 2
2	出雲市の学力・学習状況調査の結果	
(1)	学力調査の結果からみた成果と課題	P 2
(2)	学習状況調査の結果からみた成果と課題	P 3
3	小・中学校がとらえている課題	
(1)	学力調査の結果分析を踏まえた改善策から	P 4
(2)	学力向上に向けた取組に係る校長アンケートの結果から	P 4
4	出雲市が目指す「学力」	P 5
5	出雲市が目指す学力向上の方向性	
(1)	出雲市の学力向上キャッチフレーズ	P 5
(2)	「+1する子ども」とは	P 6
(3)	なぜ「『+1する子ども』を育てる」なのか	P 6
6	学力向上推進の基本的な姿勢（～ みんなで 徹底して ～）	
(1)	みんなで	P 6
(2)	徹底して	P 7
7	出雲市の学力向上に向けた具体的な取組	
(1)	主体的・対話的で深い学びを実現するための授業改善	P 7
(2)	主体的な学びに結びつく家庭学習の充実	P 8
(3)	学校と家庭・地域等との連携強化	P 10

資料 令和3年度(2021)全国及び市学力・学習状況調査に係る結果について

1 第Ⅲ期 出雲市学力向上推進プランの策定にあたって

(1) 趣旨

本市では、平成25年(2013)8月に第2期出雲市教育振興計画を策定し、その中で、義務教育が目指す方向で示した『確かな学力の定着』を具体化するため、平成26年(2014)11月に「出雲市学力向上推進プラン(以下、「第Ⅰ期プラン」という。)」を策定しました。

第Ⅰ期プランでは、本市の児童生徒は、国・県と比較して高い学力にあるものの、資料の読み取りや分析、考えをまとめ書くこと、夢を実現するために努力することなどの力に課題があることから、「自ら目標をもち実現しようとする力」「問題を解決する力」「学びを広げる力」を目指す学力として捉え、学校や家庭、地域と連携した取組により改善を図ってきました。

平成29年(2017)3月には、第3期出雲市教育振興計画を策定し、これを受け同年6月に「第Ⅱ期出雲市学力向上推進プラン(以下、「第Ⅱ期プラン」という。)」を策定しました。

第Ⅱ期プランでは、本市の教育を取り巻く現状と課題を踏まえながら、これまで取り組んできた教育施策や関連する取組のさらなる充実と新学習指導要領で示された『主体的・対話的で深い学び』の実現を図るために、組織的な授業改善の推進を重点として、児童生徒が学ぶ楽しさを実感できる学校教育を目指しました。

この度、令和4年(2022)年9月に策定された第4期出雲市教育振興計画(令和4年度(2022)～令和8年度(2026))に基づき、新たに「第Ⅲ期出雲市学力向上推進プラン(以下、「第Ⅲ期プラン」という。))を策定するものです。

第Ⅲ期プランでは、第Ⅱ期プランの成果や課題、市及び国・県の学力調査の結果を踏まえて、本市が目指す確かな学力を「基礎的な知識・技能を習得し、それらを活用して自ら考え、判断し、表現することにより、様々な問題に積極的に対応し、解決する力」とし、その定着を図るため、児童生徒に「自ら目標をもち実現しようとする力」「問題に対応し粘り強く解決に向かう力」「学びを広げる力」を、重点的に育成することを目指します。

また、ICT活用など新たな学びのスタイルも取り入れながら、生涯にわたって能動的に学び続ける児童生徒の育成を図ります。

(2) プランの位置づけ

第Ⅲ期プランは、令和4年(2022)2月に策定された第2期出雲市教育大綱の趣旨を踏まえ、令和4年(2022)9月に策定された第4期出雲市教育振興計画に掲げる『確かな学力の定着と向上』に特化したものです。

(3) プランの期間

第Ⅲ期プランの期間は、第4期出雲市教育振興計画との整合性を考慮し、令和4年度(2022)から令和8年度(2026)までとします。

2 出雲市の学力・学習状況調査の結果

(1) 学力調査の結果からみた成果と課題

小学校第6学年、中学校第3学年の国語、算数/数学の平均正答率は、ほぼ全国と同じであるといえます。

国語では、「漢字」や「言葉・文章のきまり」、算数/数学では、「グラフやデータの数量や特徴の読み取り」に関する問題など、各教科の基本的な知識や技能を問う問題について、正答率が高く定着がみられます。

一方で、国語では、文章を正しく読み取ることや自分の考えや理由を明確にして表現することに課題がみられます。算数/数学では、条件にあわせて公式を活用することや数の規則性を式を用いて記述することに課題がみられます。

このような課題に対して、資料やデータ等の情報を読み解く力、読み取った情報を活用しながら自分の考えを論理的に構成する力、自分の考えを分かりやすく表現する力等をつけていく必要があります。

そのためにも、「既習の学習事項と関連させたら解けるかもしれないと予想する」「課題を解決するために必要なデータや資料を集める」「自分だけでは分からないときは、友だちの考えを聞く」「友だちの考えを知り、自分の考えをより確かなものにする」「自分の思いや考えを根拠をもって伝える」という力をさらに伸ばしていくことが必要です。

全国学力・学習状況調査における平均正答率

【小学校第6学年】

(%)

区分	令和元年度	令和2年度	令和3年度
国語	出雲市	63.0	65.0
	島根県	62.0	63.0
	全国	63.8	64.7

(%)

区分	令和元年度	令和2年度	令和3年度
算数	出雲市	66.0	69.0
	島根県	65.0	67.0
	全国	66.6	70.2

【中学校第3学年】

(%)

区分	令和元年度	令和2年度	令和3年度
国語	出雲市	75.0	64.0
	島根県	73.0	62.0
	全国	72.8	64.6

(%)

区分	令和元年度	令和2年度	令和3年度
数学	出雲市	58.0	56.0
	島根県	57.0	53.0
	全国	59.8	57.2

※全国学力・学習状況調査は、小学校第6学年及び中学校第3学年を対象として、国語・算数/数学及び学習状況調査が毎年実施されます。

(2) 学習状況調査の結果からみた成果と課題

本市の児童生徒においては、「国語・算数/数学の授業の内容はよくわかる」の項目においては、肯定的回答が大幅に増加し、令和3年度は、小学校、中学校の国語・算数/数学ともに肯定的回答の割合が全国を上回っています。また、「授業が好き」と感じる児童生徒の割合も高くなっており、教員の日々の授業改善の成果といえます。

一方で、平均正答率は全国と同程度またはやや低いことから、獲得した知識・技能を各教科等の見方・考え方を働かせて自分の考えを表現できるように、さらに授業の質を高める必要があります。

また、「毎日同じ時刻に起きる」「毎日朝食を食べる」等の項目で90%以上が肯定的な回答をしており、保幼小中連携による学習・生活習慣の確立の取組の成果がみられます。

「平日の家庭学習時間」については、小学校では、1時間以上学習している児童の割合は全国よりも高く、学習習慣の定着が図られています。中学校では、学習時間が1時間以上2時間未満の生徒の割合は全国よりも高くなっています。一方、学習時間が2時間以上の生徒の割合は全国より低く、30分未満の生徒の割合は高い状況にあります。授業と結びつけた家庭学習の充実を図るとともに、家庭でのタブレットパソコンの活用なども進めていく必要があります。

【小学校第6学年】 (%)

国語の授業の内容はよくわかる			
	令和元年度	令和2年度	令和3年度
出雲市	85.7	中止	86.4
全国	84.9		84.2

(%)

算数の授業の内容はよくわかる			
	令和元年度	令和2年度	令和3年度
出雲市	80.7	中止	85.0
全国	83.5		84.6

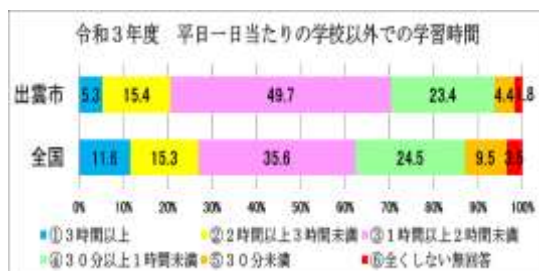
【中学校第3学年】 (%)

国語の授業の内容はよくわかる			
	令和元年度	令和2年度	令和3年度
出雲市	79.6	中止	81.9
全国	77.6		80.1

(%)

数学の授業の内容はよくわかる			
	令和元年度	令和2年度	令和3年度
出雲市	73.7	中止	78.9
全国	73.9		74.6

【小学校第6学年】



【中学校第3学年】



3 小・中学校がとらえている課題

(1) 学力調査の結果分析を踏まえた改善策から

各小・中学校では、学力調査の結果を分析し、「主体的・対話的で深い学びを実現するための授業改善」「主体的な学びに結びつく家庭学習の充実」「家庭・地域と連携、社会との関わり」の3つ視点で課題を整理し、改善策を講じています。令和3年度学力調査改善策では、多くの学校で次の改善策に取り組むこととしており、本市の児童生徒に確かな学力を身に付けさせるための具体的な取組の方向性が明らかとなりました。

主体的・対話的で深い学びを実現するための授業改善	主体的な学びに結びつく家庭学習の充実	家庭・地域との連携、社会との関わり
話し合い活動の充実	学習課題の質と量	新聞記事やニュースの紹介
学習課題や発問の工夫	家庭学習の仕方の工夫	あいさつの習慣化
めあてと振り返りの充実	家庭学習の計画と時間の確保	地域教材を活用した学習
I C T機器の有効活用	自分の考えを「書く」ことをとり入れた学習課題	「生活振り返り週間」の設定
個人思考の場面と学び合いの場面の確保	読書の習慣化	メディア（インターネット）との付き合い方
学校図書館の活用	デジタルドリルや映像教材の活用	ブログやホームページを活用した情報発信

(2) 学力向上に向けた取組に係る校長アンケートの結果から

各小・中学校長を対象に令和3年度末に行った「学力向上に向けた取組に係るアンケート」結果から、学力向上の組織的な推進に向けて必要な取組が明らかになりました。

① 「児童生徒に育成したい資質・能力の共有」について

継続的に校内授業研究等の実践に努めているものの、研究成果を共有する機会や時間が減少傾向にあります。

学校として、児童生徒につけたい力、育てたい力について明確にした学力向上指針の共有と教職員が協議する時間の確保が必要です。

② 「組織的、継続的な校内研修の実施」について

多くの学校で、各校の学力向上指針に基づいて、授業改善推進リーダーが中心となり、チームを組んで校内研修を推進しています。

しかし、学校全体で授業改善につながっていないことが課題となっています。

そのため、研究授業の事前の学習指導案づくりをチームで行うこと、授業を見るポイント（視点）を明確にして互いに授業を見合うこと、そのポイント（視点）に絞って協議することが組織的な授業改善を推進する上で必要です。

③ 「めあてと振り返りを意識した授業スタンダード」※の活用

各学校では、授業スタンダードの活用が増え、授業づくりの手順について教員間の共通理解が図られています。

この授業スタンダードは、授業改善を図り、質の高い授業を行う上で有効な考え方であることから、教員一人一人のより深い理解とさらなる普及・定着を図る必要があります。

※学習指導要領に示されている「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善のために、学習の目標（めあて等）と振り返りを意識した「わかる授業」の転換を図る全教科共通の授業づくりの考え方のこと

4 出雲市が目指す「学力」

第Ⅰ期プランでは、出雲市のすべての子どもの学力を高め、出雲の未来を切り拓く人材を育成するためには、「自ら目標をもち実現しようとする力」「問題を解決する力」「学びを広げる力」の3つの力を、学校・家庭・地域においてバランスよく身に付けていく必要があることを示しました。

第Ⅱ期プランでは、児童生徒の実態、学校教育における成果と課題及び次期学習指導要領が示す新しい学力観に基づき、目指す「学力」に到達するため重点的に育成すべき力を見直しました。

第Ⅲ期プランでは、前頁までの成果と課題を踏まえ、確かな学力として「基礎的な知識・技能を習得し、それらを活用して自ら考え、判断し、表現することにより、様々な問題に積極的に対応し、解決する力」の定着を図るため、「いずもGIGAスクールプラン」の推進も加えて育成すべき力を見直しました。

重点的に育成すべき力

○ 自ら目標をもち実現しようとする力

目標達成するために知識・技能を習得し、問題意識をもって主体的・協働的に学ぶ力

○ 問題に対応し粘り強く解決に向かう力

身に付けた知識・技能を基盤として、それらを活用しながら問題解決していくために必要な思考力、判断力、表現力

○ 学びを広げる力

学びを生活と結び付けて考える力、学びを人生や社会に生かす力

5 出雲市が目指す学力向上の方向性

(1) 出雲市の学力向上キャッチフレーズ

プラスワン
「+1する出雲の子ども」を育てる
～ みんなで 徹底して ～

(2) 「+1する子ども」とは

「+1する子ども」とは、今よりももっとよりよい自分になるために頑張ろうとする子どものことです。具体的には、「わかるようになろう」「できるようになろう」「もっとわかりたい」と、今よりも少しでもよい自分にしていこうと一歩を踏み出したり、自己を改善したりできる子どもです。

「+1する子ども」を育てることは、第2期出雲市教育大綱の基本理念にある「夢をもち未来を切り拓くしなやかでたくましい人づくり」にもつながります。

(3) なぜ「『+1する子ども』を育てる」なのか

出雲市では、小・中学校の義務教育期間だけでなく、将来にわたって学び続ける出雲の子どもでいてほしいと願っています。常に前向きに学び、よりよい自分を求めて頑張る子どもを育てることは、将来の活力ある人材を育てることにつながります。そのことがよりよい出雲市を創る原動力となり、出雲市民の幸せにもつながると考えています。

そのために、出雲の子どもに「今よりも、もっとよりよい自分や地域、社会になるために、協力して頑張ろうとする態度」を育てていくことが必要です。

学力向上推進の観点からいえば、出雲の子どもへの学習への関心と意欲を高めていくことが重要です。

さらに主体的に学習活動に参画したり、よりよいものを求めて友だちと協働したりする力をつけることで、さらなる学力の高まりが期待できます。

また、出雲市には確かな指導力を持つ教員が多く、これまでの経験により蓄積されたノウハウを教員同士で共有し、さらに教員自らが「+1」を実践していけば、子どもの主体的・対話的で深い学びをより一層高めていくことができます。

以上の理由から、引き続いて「『+1する出雲の子ども』を育てる」を出雲市の学力向上のキャッチフレーズとし、学力向上の取組を推進していきます。

6 学力向上推進の基本的な姿勢（～ みんなで 徹底して ～）

(1) みんなで

学校、家庭・地域及び教育委員会それぞれが、目指すべき方向性「+1する出雲の子ども」を共通理解し、それぞれができることを役割分担して確実に取り組むことで効果あるものとなります。これは、第2期出雲市教育大綱で掲げる基本理念「家庭・地域・学校で育む出雲の教育～夢をもち未来を切り拓くしなやかでたくましい人づくり～」とも合致します。

役割を担う一人一人がその役割を自覚し、みんなで出雲の子どもを育てていく意識を高めることを大切にしていきます。また、大人が「+1」の意識をもって生活することによって、児童生徒への模範ともなります。

① 学校で

学校の教職員はもちろん、学習の主体者である児童生徒も含め、学校をあげて学力向上の推進を図ります。

② 家庭・地域で

相互の役割を確かめ合い、学校と適切な連携を図りながら学力向上の推進を支えます。

③ 教育委員会で

学力向上の環境づくりも含めた、学力向上推進のための事業に教育委員会全体で取り組みます。

(2) 徹底して

学力向上の取組は、学校、家庭・地域及び教育委員会が目指すべき方向性を共通理解し、取り組むべきことを精選し、それぞれの立場において徹底して行うことを大切にします。

7 出雲市の学力向上に向けた具体的な取組

目指す学力と本市の現状を踏まえ、第Ⅲ期プランでは「主体的・対話的で深い学びを実現するための授業改善」「主体的な学びに結びつく家庭学習の充実」「学校と家庭・地域等との連携強化」の3つを柱とし、具体的方策を進めていきます。

(1) 主体的・対話的で深い学びを実現するための授業改善

学ぶこと、追究することの楽しさが実感でき、児童生徒が主体的に学びに向かおうとする授業への改善を行います。

① 学校が行うこと

ア 学習の目標（めあて等）と振り返りを意識した「わかる授業」への転換を図るとともに、校長の示す学力向上の方針を学校全体で共有して組織的に取り組みます。

イ 学力調査結果等から自校の授業改善の手立てを具体化（「学力調査結果分析と改善策」を作成）して、改善に向けた研修や研究に取り組みます。

ウ 児童生徒の学習状況に応じて、個々の興味・関心や意欲を高め、学びを深める活動の充実を図ります。

エ 一斉学習、個別学習、協働学習の各場面で、ICT機器を効果的に活用して、授業改善に取り組みます。

評価参考指標	校 種	令和3年度(現状)	令和8年度(目標)
「主体的・対話的で深い学び」の過程を重視した学習を計画的に取り入れている学校の割合	小学校	63.7%	100.0%
	中学校	71.4%	100.0%
教職員と児童生徒がやりとりする場面で、ICT機器を活用した取組を行っている学校の割合	小学校	12.1%	100.0%
	中学校	21.4%	100.0%

② 教育委員会が行うこと

- ア 1校あたり年間3回以上の学力向上に係る学校訪問指導を実施し、各学校の学力向上に向けた組織的な授業改善への助言等を行います。
- イ 「めあてと振り返りを意識した授業スタンダード」の普及・定着、授業改善等をテーマとした学力向上研修講座の開催、啓発資料の作成・発行等を行います。
- ウ 授業改善推進研究・研修事業による研究校での授業改善の研究及び研究成果の普及により、各学校の授業改善を推進します。
- エ 英語指導助手（AET）または外国語指導助手（ALT）を配置し、児童生徒のコミュニケーション能力や表現力などの向上を図ります。
- オ すべての小・中学校に学校司書（学びのサポーター）または学校司書（読書ヘルパー）を配置し、学校図書館の読書センター機能、学習センター機能、情報センター機能を充実させ、学校図書館を活用した学習を積極的に展開します。
- カ 出雲科学館での理科学習の充実に取り組み、児童生徒の科学への興味・関心を高めるとともに、科学的思考力の育成を図ります。
- キ いずれもGIGAスクールプランに基づき、効果的なICT活用教育が推進できるよう、ICTの環境整備や教職員の活用能力の向上に向けた研修会を実施します。
- ク 各学校の学力向上策や教育実践に関する優れた取組を収集し、各校に紹介します。

評価参考指標	校 種	令和3年度(現状)	令和8年度(目標)
学力向上研修講座の実施は、参加者の授業力を向上させる上で有効であると感じている学校の割合	小学校	81.8%	100.0%
	中学校	85.7%	100.0%
児童生徒が互いの考えを交換し共有して話し合いなどができるように、コンピュータやソフトウェアなどを活用することを指導することができる授業者の割合	小学校	51.8%	100.0%
	中学校	47.1%	100.0%

(2) 主体的な学びに結びつく家庭学習の充実

児童生徒が、主体的に学ぶ態度を身に付けることを目指し、家庭学習の習慣化と学習内容の充実を図ります。

① 児童生徒が行うこと

- ア 家庭学習での目標や時間を決め、継続的に取り組みます。
- イ 学校から示された家庭学習の課題のほか、自主的な学習にも取り組みます。
- ウ 自分にあった進度や内容の学習ができるように、家庭学習においてもタブレットパソコンを活用して、主体的に取り組みます。

評価参考指標	学 年	令和3年度(現状)	令和8年度(目標)
家で、自分で計画を立てて勉強をしている児童生徒の割合	小 6	76.5%	90.0%
	中 3	71.6%	90.0%
学校の授業時間以外に、普段(月～金)、1日当たり1時間以上(中3は2時間以上)勉強している児童生徒の割合	小 6	70.4%	80.0%
	中 3	23.4%	80.0%
学校が休みの日(土、日)に、1日当たり1時間以上(中3は2時間以上)勉強している児童生徒の割合	小 6	70.8%	80.0%
	中 3	55.5%	80.0%

② 学校が行うこと

- ア 家庭学習の時間確保と質の向上を目的に、「家庭学習の手引き」を作成して児童生徒に指導し、家庭にも協力を求めます。
- イ 各学校が策定した学力調査結果分析と改善策の家庭学習に係る事項や、中学校区で連携して行う学力向上の取組を確実に実践します。
- ウ 児童生徒がタブレットパソコンを家庭でも主体的に活用できるよう、使い方の指導や課題の出し方を工夫します。

評価参考指標	校 種	令和3年度(現状)	令和8年度(目標)
家庭学習の取組として、学校では、児童生徒に家庭での学習方法を具体例を挙げながら教えている学校	小学校	97.0%	100.0%
	中学校	71.4%	100.0%
近隣の小・中学校と、教科の教育課程の接続や、教科に関する共通の目標設定など、教育課程に関する共通の取組を行っている学校	小学校	63.6%	100.0%
	中学校	64.2%	100.0%

③ 家庭で行うこと

- ア 基本的な生活習慣を確立するとともに、家庭学習環境を整えます。
- イ 子どもの学校での学習状況を把握し、家庭学習の習慣化に向けて、学校と連携して取り組みます。
- ウ 家庭で、スマートフォン・ゲーム・インターネット・SNS等のメディア接触のルールを作り、子どもの学習時間の確保に取り組みます。

評価参考指標	学 年	令和3年度(現状)	令和8年度(目標)
携帯電話・スマートフォンやコンピュータの使い方について、家の人と約束している児童生徒の割合	小 6	68.7%	80.0%
	中 3	63.9%	80.0%

④ 教育委員会が行うこと

- ア 放課後等を利用した学習支援事業を実施し、主体的に学ぼうとする子どもを支援します。
- イ 家庭学習の定着と基本的な生活習慣の確立について、家庭へ啓発を行います。
- ウ タブレットパソコンを家庭学習でも活用できるよう、ソフトウェア等の整備を図ります。

評価参考指標	校 種	令和3年度(現状)	令和8年度(目標)
児童生徒一人一人に配備されたタブレットパソコンを家庭で使用させている学校の割合	小学校	64.7%	100.0%
	中学校	53.3%	100.0%

(3) 学校と家庭・地域等との連携強化

本市独自の取組や地域の素材を活用した取組をとおして、学校と家庭・地域等との連携を強化することにより、児童生徒の学力向上を支えます。

① 学校が行うこと

ア 家庭や地域に、自校の学力向上の方針や学力調査結果分析と改善策等について、情報発信を行います。

イ 小学校入学後の学習活動への滑らかな接続を図るために、幼稚園、保育所等と連携して、接続期カリキュラムの充実を図ります。

ウ 中学校区を中心に、児童生徒の交流活動や共通の生活習慣チェックシートの取組、合同研修会の実施等を行います。

エ 地域の「ひと・もの・こと」を活用したふるさと・キャリア教育を推進します。

② 家庭・地域が行うこと

ア 常に子どもや学校に関心を持ち、学習活動や学校行事に積極的に参加します。

イ 様々な分野で活躍する地域の人材を、学校が各教科や総合的な学習の時間、特別活動等で積極的に活用できるよう支援します。

ウ 地域学校運営理事会による、地域で学校を支援する活動の充実を図ります。

③ 教育委員会が行うこと

ア 各学校の「学力調査結果分析と改善策」を公表し、学校、家庭・地域、教育委員会が学力に関する情報を共有します。

イ 保幼小連携では、幼稚園・保育所等から小学校入学に向けて、保護者や幼児が感じる就学不安や環境変化への戸惑いを軽減できるよう、市内一斉の「保幼小交流の日」を開催します。

ウ 出雲への関心と知見を深めるきっかけとして、小学校3年生から6年生で使用される社会科等副読本「わたしたちの出雲市」を作成し配付します。

【資料】

令和3年度(2021)

全国及び市学力・学習状況調査に係る結果について

令和3年(2021)12月

出雲市教育委員会

1 全国学力・学習状況調査の概要

(1) 実施日

令和3年5月27日（木）

(2) 対象学年及び教科

- ・ 小学校第6学年〔国語・算数・学習状況調査〕
- ・ 中学校第3学年〔国語・数学・学習状況調査〕

(3) 平均正答率

※ 平成29年度から都道府県及び市町村の値は整数値となった。

※ 令和2年度は、新型コロナウイルス感染症拡大のため中止となった。

① 小学校第6学年

教科	国語		算数	
	R1	R3	R1	R3
年度	R1	R3	R1	R3
出雲市	63	65	66	69
島根県	62	63	65	67
全国	63.8	64.7	66.6	70.2
市と県の差	+1	+2	+1	+2
市と国の差	-0.8	+0.3	-0.6	-1.2

② 中学校第3学年

教科	国語		数学	
	R1	R3	R1	R3
年度	R1	R3	R1	R3
出雲市	75	64	58	56
島根県	73	62	57	53
全国	72.8	64.6	59.8	57.2
市と県の差	+2	+2	+1	+3
市と国の差	+2.2	-0.6	-1.8	-1.2

- ・ 小学校第6学年は、国語、算数ともに島根県平均正答率を「やや上回り」、国語、算数ともに全国平均正答率と「同程度」であった。
- ・ 中学校第3学年は、国語は、島根県平均正答率を「やや上回り」、数学は、「上回った」。また、国語、数学ともに全国平均正答率と「同程度」であった。

(4) 結果概要（レーダーチャート）

※ 点線(---)が全国の平均を表している。点線より内側にある項目は、全国平均を下回っていることを表す。点線より外側にある項目は、全国平均を上回っていることを表す。

小学校第6学年



中学校第3学年



2 出雲市学力・学習状況調査の概要

(1) 実施日

令和3年4月15日（木）

(2) 対象学年及び教科

- ・ 小学校第4学年〔国語、算数、学習状況調査〕
- ・ 小学校第5学年〔国語、算数、学習状況調査〕
- ・ 中学校第1学年〔国語、数学、学習状況調査〕
- ・ 中学校第2学年〔国語、数学、英語、学習状況調査〕

(3) 平均正答率

教科		国語		算数／数学		英語	
年度		R2	R3	R2	R3	R2	R3
小4	出雲市	64.7	68.3	75.0	72.2		
	全国	64.6	69.3	74.2	70.9		
	市と国の差	+0.1	-1.0	+0.8	+1.3		
小5	出雲市	68.2	67.7	65.9	64.9		
	全国	69.4	67.8	66.5	65.3		
	市と国の差	-1.2	-0.1	-0.6	-0.4		
中1	出雲市	67.0	72.2	70.4	70.9		
	全国	64.4	71.4	68.6	68.2		
	市と国の差	+2.6	+0.8	+1.8	+2.7		
中2	出雲市	72.5	70.6	59.6	59.8	65.0	55.5
	全国	72.2	68.5	59.8	58.6	62.3	54.5
	市と国の差	+0.3	+2.1	-0.2	+1.2	+2.7	+1.0

- ・ 中学校第1学年の数学、中学校第2学年の国語は、全国平均正答率を「やや上回った」。
- ・ その他については、全国平均正答率と「同程度」であった。

3 全国学力調査の結果について

【小学校第6学年 国語】

- ・上位層（6割から9割正答）の児童の割合が全国と比較して多い。
- ・領域別では、「言葉の特徴や使い方に関する事項」で全国平均正答率（以下 全国という）を3.9割上回った。一方、「書くこと」で全国を2.9割下回った。
- ・「学年別漢字配当表に示されている漢字を文の中で正しく使う」問題では、全国を9割程度上回り、「文の中における主語と述語との関係を捉える」問題では、全国を3.5割上回っており、定着している。
- ・「事実、感想と意見を区別し、話の内容が明確になるようにスピーチの構成を考える」問題で、全国を4.9割下回り、「自分の主張が明確に伝わるように、文章全体の構成や展開を考える」問題で、7.2割下回り、課題がある。

【小学校第6学年 算数】

- ・高正答率（9割以上正答）の児童の割合が全国と比較して少ない。
- ・領域別では、「図形」で全国を4.5割下回った。中学校とも同じ傾向であり、「図形」領域に課題があることがわかる。
- ・棒グラフから、「数量を読み取ること」や「項目間の関係を読み取ること」は、90%以上の正答率であり、理解している。
- ・「直角三角形の面積を求める式と答えを書く」問題では、全国を6.1割下回り、「二等辺三角形を組み合わせた平行四辺形面積の求め方と答え」を記述する問題では、全国を4.5割下回り、無解答率も高くなっている。
- ・「帯グラフの4つの項目から、差が一番大きい2つの項目を選び、それぞれの割合（%）を書く」こと、「30円を1としたときに、12円が0.4にあたる理由を言葉や式で書く」ことなどの記述式の問題では、無解答率が高くなっている。このように、図形の面積を求めるためにどの部分の長さが必要かを考え説明すること、データの特徴や傾向を読み取って説明すること、小数の場合でも倍の意味を理解し説明することに課題がある。

【中学校第3学年 国語】

- ・高正答率（8割以上正答）の生徒の割合が全国と比較して少ない。中間層（4割から7割正答）の生徒の割合が全国より多い。
- ・領域別では、おおむね全国と大きな差異は見られないが、「読むこと」で全国を2.3割下回った。
- ・「話し合いにおける司会の発言を、発言の要約、発言の補足、進め方の提案、話題の転換の4つの選択肢から選択する」という問題では、全国を3割上回った。
- ・「文章に表れているものの見方や考え方を捉え、自分の考えをもつ」という問題では、全国を5.5割下回り、4割の生徒が無解答である。
- ・「相手や場に応じて敬語を適切に使う」という問題では、全国を4.6割下回っており、敬語の使い方と種類についての理解に課題がある。

【中学校第3学年 数学】

- ・高正答率（8割以上正答）の生徒の割合が全国と比較して少ない。中間層（3割から6割正答）の生徒の割合が全国より多く、低正答率（2割未満正答）の生徒の割合が全国より少ない。
- ・領域別では、「図形」で全国を4.0割下回った。小学校とも同じ傾向であり、「図形」領域に課題があることがわかる。
- ・「複数のデータの特徴を捉えるために中央値を求める」問題では、全国を7.0割上回り、理解できている。
- ・「扇形の中心角と弧の長さや面積との関係」についての問題では全国を5.6割、「ある条件のもとで成り立つ事柄の理由を、式や数字を用いて説明する」問題では全国を7.1割、「2つの三角定規を組み合わせてできる2つの角の性質を見だし、それを式や数字により表現する」問題では全国を5.7割、それぞれ下回った。
- ・「 $4n+12$ または $4(n+3)$ を使って、答えが4の倍数になることを根拠をもって説明すること」、「2つのデータを比較し、そのデータの傾向を説明すること」、「2つの三角定規を組み合わせてできる四角形において、向かい合う2つの内角の角度の関係を説明すること」の問題では、無解答率が高くなっている。このように、事柄の特徴を式や数字で説明すること、問題を解決する道筋を論理的に説明することには、課題がある。

4 学習状況調査の結果について

(1) 全国平均と5ポイント以上の差があった調査・質問項目（抜粋）

※ 次の質問について、「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」など、肯定的な回答をした児童生徒の割合

※ 記号 ○ 出雲市の値が、5ポイント以上、全国値を上回った。

▲ 出雲市の値が、5ポイント以上、全国値を下回った。

① 小学校第4・5学年、中学校第1・2学年 (市調査から)

学年	調査項目	本市	全国	差
小4	○ 家の人から言われなくても、進んで勉強している。	80.5	72.7	7.8
	○ 自分で勉強の計画を立てて、勉強している。	72.9	65.8	7.1
	○ 朝食は、家の人といっしょに食べている。	79.1	73.5	5.6
	▲ 通信添削を利用して、勉強している。	23.3	28.5	-5.2
	▲ 本(マンガや雑誌をふくまない)を読んでいる。	64.6	70.7	-6.1
	▲ 新聞の記事を読んでいる。	28.4	35.2	-6.8
	▲ 勉強に辞書(電子辞書をふくむ)を利用している。	43.8	50.7	-6.9
	▲ 学習塾に行つて、勉強している。	22.7	31.0	-8.3
	▲ 地域の行事に参加している。	53.4	65.7	-12.3
小5	○ 家の人から言われなくても、進んで勉強している。	80.4	71.3	9.1
	○ 自分で勉強の計画を立てて、勉強している。	73.9	65.3	8.6
	○ 朝食は、家の人といっしょに食べている。	76.5	70.8	5.7
	○ 睡眠不足にならないようにしている。	80.0	74.6	5.4
	○ 出かけるときは、家の人に行き先を言っている。	93.8	88.5	5.3
	○ 困っている人の手助けをしている。	73.1	68.0	5.1
	▲ 本(マンガや雑誌をふくまない)を読んでいる。	61.7	67.3	-5.6
	▲ 参考書や問題集などを使って、勉強している。	39.5	45.2	-5.7
	▲ 勉強に図書館を利用している。	15.9	21.7	-5.8
	▲ 地域の行事に参加している。	55.1	61.9	-6.8
	▲ 学習塾に行つて、勉強している。	21.0	29.0	-8.0
	▲ 新聞の記事を読んでいる。	26.1	34.2	-8.1
▲ 勉強に辞書(電子辞書をふくむ)を利用している。	39.0	52.4	-13.4	

学年	調査項目	本市	全国	差
中1	○ 夜は、時刻を決めて寝ている。	67.5	51.7	15.8
	○ 家の人から言われなくても、進んで勉強している。	84.1	68.4	15.7
	○ 自分で勉強の計画を立てて、勉強している。	80.9	65.9	15.0
	○ 困っている人の手助けをしている。	80.9	67.8	13.1
	○ 自分で時間を決めて、テレビを見ている。	52.7	40.8	11.9
	○ 自分は、先生から認められていると思う。	70.4	58.9	11.5
	○ 出かけるときは、家の人に行き先を言っている。	95.3	84.6	10.7
	○ 自分は友だちから認められていると思う。	77.2	66.8	10.4
	○ 朝食は、家の人といっしょに食べている。	74.2	63.8	10.4
	○ 勉強するときは、集中して勉強している。	87.8	77.7	10.1
	○ 自分には良いところがあると思う。	71.8	63.8	8.0
	○ 家の人と決めた約束やきまりを守っている。	94.2	86.3	7.9
	○ 学校での出来事を、家の人に話している。	88.0	81.0	7.0
	▲ 通信添削を利用して、勉強している。	15.8	21.0	-5.2
	▲ 新聞の記事を読んでいる。	21.7	30.8	-9.1
	▲ 学習塾に行つて、勉強している。	23.1	33.5	-10.4
	▲ 勉強に辞書(電子辞書をふくむ)を利用している。	37.0	53.5	-16.5

中2	○ 家の人から言われなくても、進んで勉強している。	79.4	56.0	23.4
	○ 自分で勉強の計画を立てて、勉強している。	75.1	56.3	18.8
	○ 夜は、時刻を決めて寝ている。	61.3	43.5	17.8
	○ 困っている人の手助けをしている。	80.3	62.7	17.6
	○ 自分は、先生に認められていると思う。	70.6	53.0	17.6
	○ 朝食は、家の人といっしょに食べている。	70.2	53.9	16.3
	○ 自分には良いところがある。	70.4	56.6	13.8
	○ 自分は友だちから認められていると思う。	74.8	61.6	13.2
	○ 勉強するときは、集中して勉強している。	84.4	71.2	13.2
	○ 自分で時間を決めて、テレビを見ている。	48.6	36.3	12.3
	○ 出かけるときは、家の人に行き先を言っている。	92.8	81.1	11.7
	○ 学校での出来事を、家の人に話している。	83.3	73.5	9.8
	○ 家の人と決めた約束やきまりを守っている。	90.6	82.6	8.0
	○ 家の人に、「行ってきます」「ただいま」などの挨拶をしている。	93.8	87.6	6.2
	○ 家の手伝い(ゴミ出しなど)をしている。	73.0	67.0	6.0
	○ 夕食は、家の人といっしょに食べている。	95.5	90.3	5.2
	▲ 新聞の記事を読んでいる。	21.2	26.7	-5.5
	▲ 学習塾に行って、勉強している。	34.7	42.3	-7.6
▲ 勉強に辞書(電子辞書をふくむ)を利用している。	34.9	43.4	-8.5	

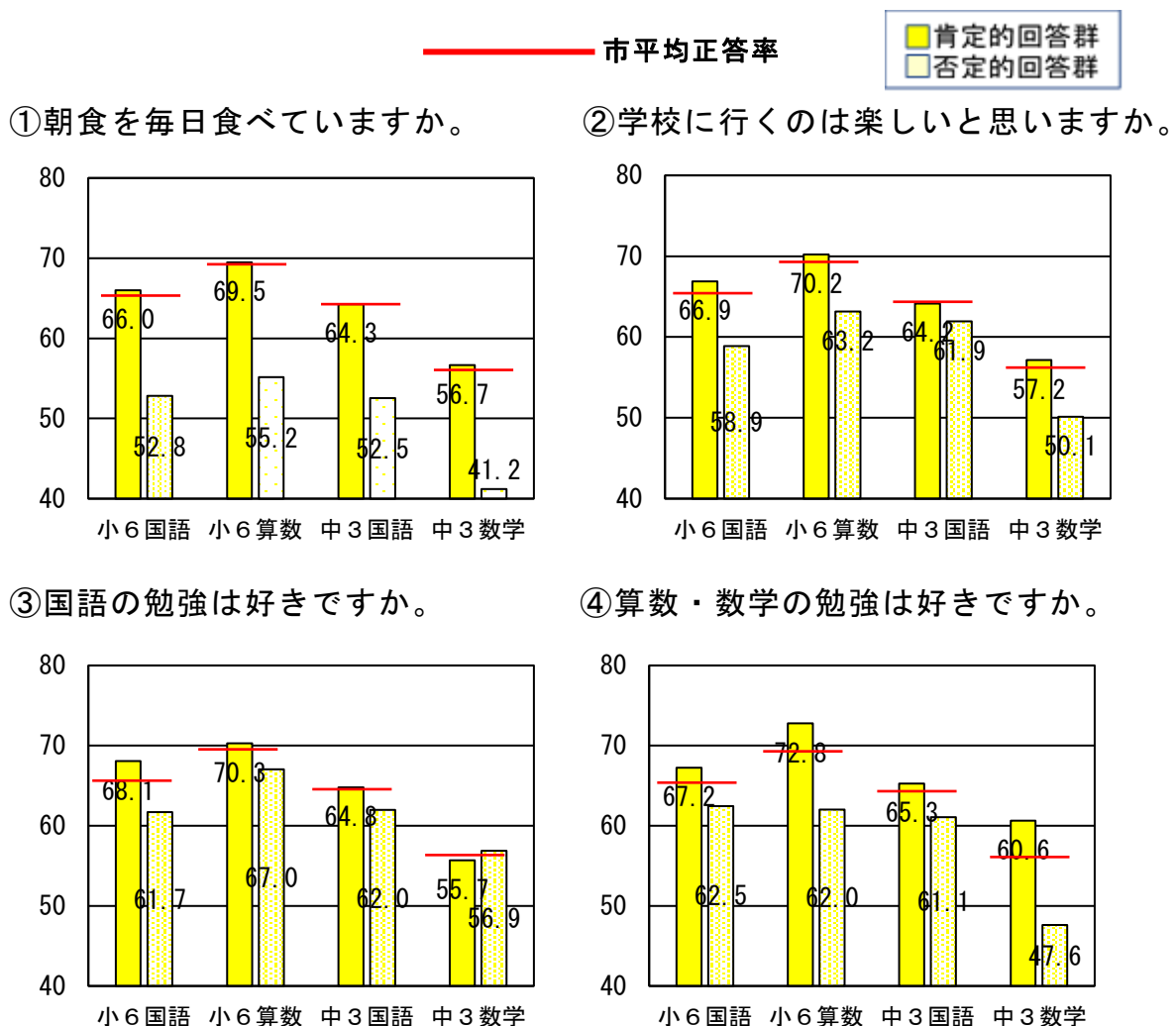
② 小学校第6学年、中学校第3学年 (全国調査から)

学年	質問項目	本市	全国	差
小6	○ 新型コロナウイルスの感染拡大で多くの学校が休校していた期間中、計画的に学習を続けることができましたか。	72.0	64.6	7.4
	○ 新型コロナウイルスの感染拡大で多くの学校が休校していた期間中、規則正しい生活を送っていましたか。	69.8	63.1	6.7
	▲ 5年生までに受けた授業で、自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して発表していましたか。	57.9	63.5	-5.6
	▲ これまで、学校の授業以外で、英語を使う機会がありましたか(地域の人や外国にいる人と英語で話す、英語で手紙や電子メールを書く、英語のテレビやホームページを見る、英会話教室に通うなど)。	37.2	44.4	-7.2
中3	○ 新型コロナウイルスの感染拡大で多くの学校が休校していた期間中、計画的に学習を続けることができましたか。	48.5	37.6	10.9
	○ 新型コロナウイルスの感染拡大で多くの学校が休校していた期間中、規則正しい生活を送っていましたか。	58.3	48.4	9.9
	○ 総合的な学習の時間では、自分で課題を立てて情報を集め整理して、調べたことを発表するなどの学習活動に取り組んでいますか。	79.2	70.2	9.0
	○ 数学の授業で問題の解き方や考え方が分かるようにノートに書いていますか。	94.8	86.6	8.2
	○ 家で自分で計画を立てて勉強をしていますか(学校の授業の予習や復習を含む)。	71.6	63.5	8.1
	○ 1、2年生のときに受けた授業では、各教科などで学んだことを生かしながら、自分の考えをまとめたり、思いや考えをもとに新しいものを作り出したりする活動を行っていましたか。	66.6	59.5	7.1
	○ 学級活動における学級での話し合いを生かして、今、自分が努力すべきことを決めて取り組んでいますか。	76.4	69.8	6.6
	○ 数学の勉強は好きですか。	65.0	59.1	5.9

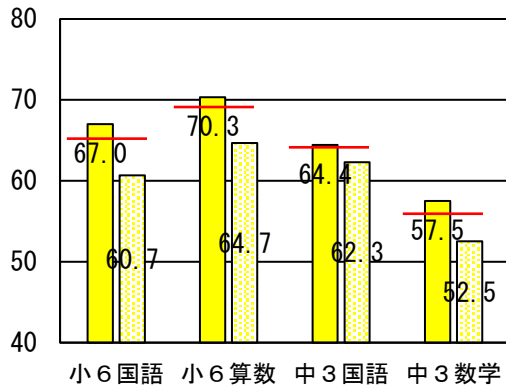
○ 数学の授業で学習したことを、普段の生活の中で活用できないか考えますか。	56.4	50.6	5.8
○ 学習した内容について、分かった点や、よく分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができていますか。	80.3	74.6	5.7
○ 地域や社会をよくするために何をすべきかを考えることがありますか。	49.3	43.8	5.5
○ 数学の問題の解き方が分からないときは、あきらめずにいろいろな方法を考えますか。	81.3	75.8	5.5
○ 難しいことでも、失敗を恐れずに挑戦していますか。	71.3	65.9	5.4
○ 学級の生徒との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか。	82.9	77.8	5.1
○ 今住んでいる地域の行事に参加していますか。	48.7	43.7	5.0
▲ 新型コロナウイルスの感染拡大で多くの学校が休校していた期間中、勉強について不安を感じましたか。 ※ 不安を感じなかった生徒が全国平均より多い。	56.0	62.8	-6.8

(2) 児童生徒の学習状況と教科の平均正答率 (全国調査から)

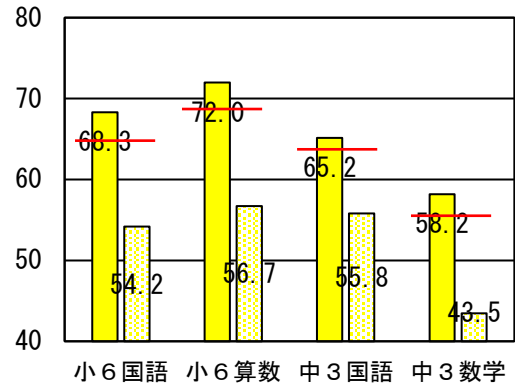
※ 次の①～④の質問について、「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」などと回答した児童生徒を「肯定的回答群」、「どちらかといえば当てはまらない」「当てはまらない」と回答した児童生徒を「否定的回答群」としている。



⑤家で自分で計画を立てて勉強をしていますか（学校の授業の予習や復習を含む）。

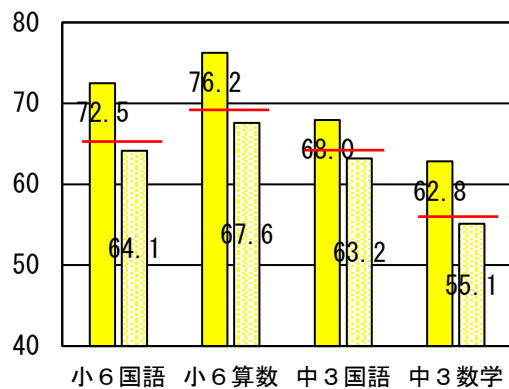


⑥授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか。

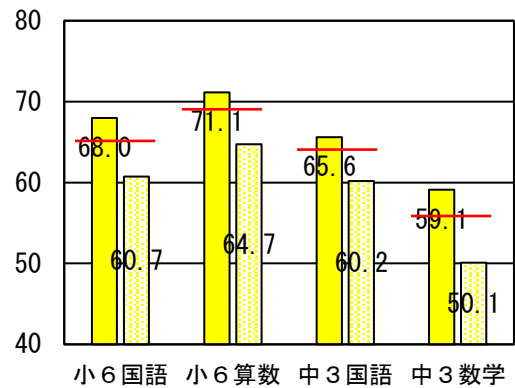


⑦新聞を読んでいますか。

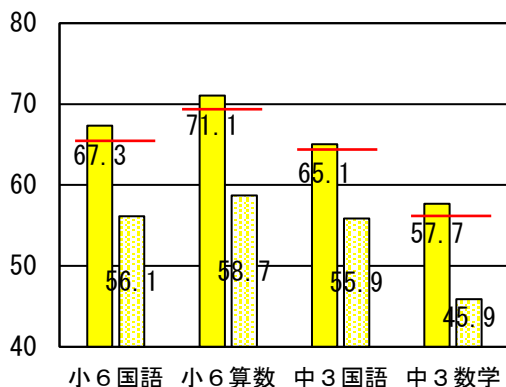
※ 肯定的回答群：
「ほぼ毎日読んでいる」
「週に1～3回読んでいる」
否定的回答群：
「月に1～3回読んでいる」
「ほとんど、または全く読まない」



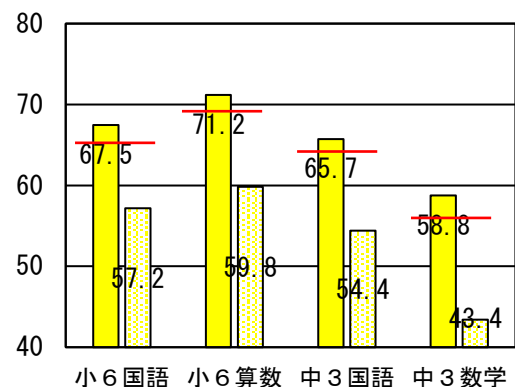
⑧授業では、各教科などで学んだことを生かしながら、自分の考えをまとめたり、思いや考えをもとに新しいものを作り出したりする活動を行っていましたか。



⑨話し合う活動では、話し合う内容を理解して、相手の考えを最後まで聞き、友達の考え（自分と同じところや違うところ）を受け止めて自分の考えをしっかりと伝えていましたか。



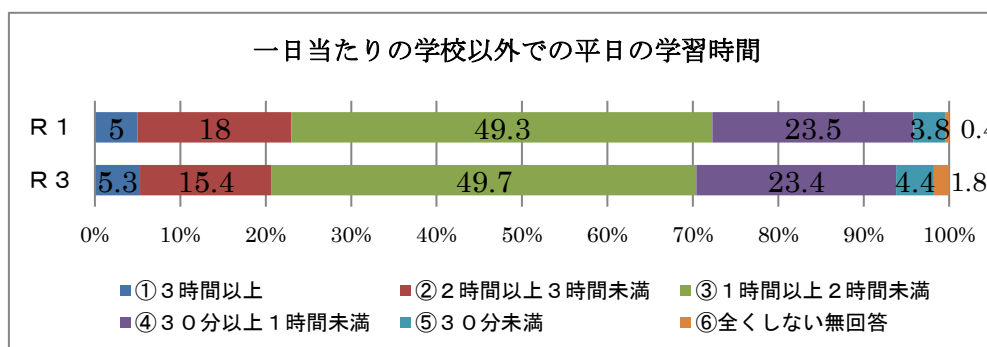
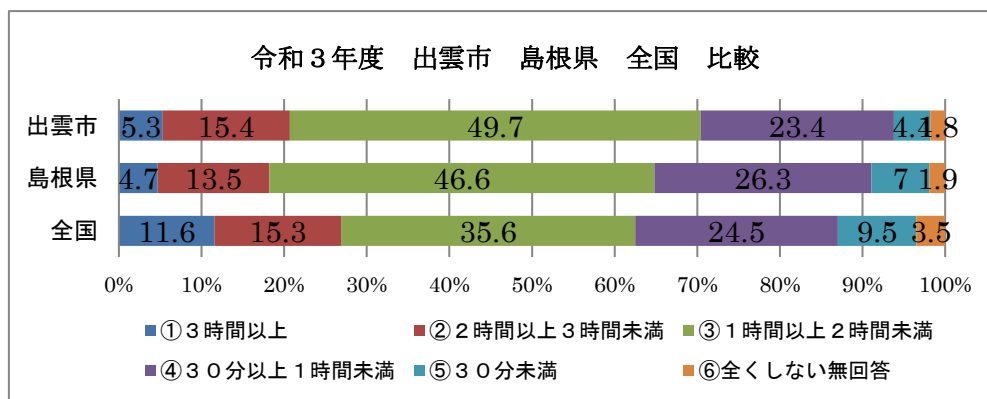
⑩学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか。



(3) 平日の家庭学習時間の状況

① 小学校第6学年

(%)



② 中学校第3学年

(%)

